

洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL④2334

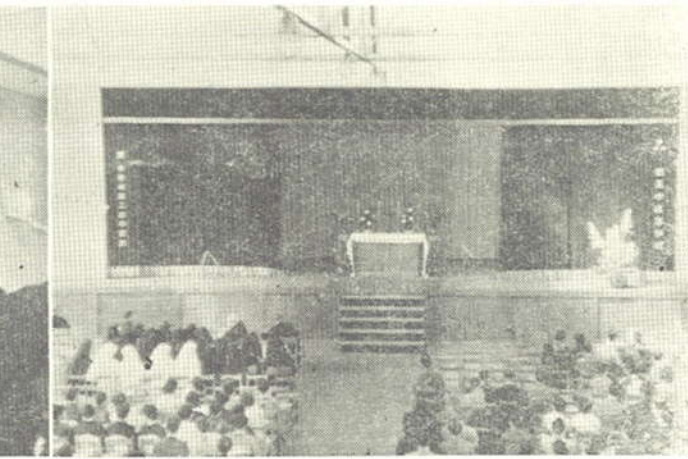
新館落成式

一、開会の辭
一、祝別式
一、国歌齊唱
一、校長挨拶
一、理事長挨拶

一、司教祝辭
一、來賓祝辭
一、校歌齊唱
一、閉会の辭

まず聖式が實せられる。續いて
別別式が京都教区長の古屋國教によつて行なわれた。壯重な音楽の響きたる中をしらずと行列は正面入口から入場し、祭壇へ進む
金屬超立のうちに、祈りが行なわれ、次に行列は二階、三階の教室を祝別するため出動した。この日は、別別式の祈りがラテン語で行なわれるために、特に日本語で祭別が行なわれた。ほどなく行列は再び講堂にもどり、續いて講堂の清めが行なわれ、キリストの像が講堂の正面入口上にかげられた
最後に、生徒、父兄は古屋國教より祝福を受け別別式は終了した。

國歌斉唱に終き、校長は書斎より「神家をたてたまわずば、たつるもの、の餓はむなし」という言葉を引用して、今ここに立派な校舎が完成した。しかしこれは誠びるか否か、たが我々は永遠に誠びない立派な建物を、この新しい建物において作り上げねばならぬといと挨拶した。理事長が現在台湾に行つておられるために、理事長へは、手紙をもつて父兄の方々、生徒諸君、先生方のおかげで立派な校舎が完成した。今後とも協力を請うと挨拶を行つた。又古屋國教は校舎完成にあたり、碑の完成をめざして努力しようという決心を



落成記念式場

昨年

体育館を大活用

校長杯争奪戦も

今年も記念
祭が始まつた
生徒会で記念
祭を催すのは
二回目という
わけである。
去年よりより
盛大にやろう
というわけで

校長杯争奪戦も

今年はお慶友会が催された。これ
は去年も企画はされたが、結局、
費用の問題等で取止めになつたも
のだつた。運動会は生徒数が多く
盛大だつた。今年には特に校長杯争
奪の賞状が行われる。これなど仲
い。

ではない。些ひとつ新しい校舎の
様に新鮮な意欲というものをとり
もどしたい。これには学校側、特に
先生方の協力による事はもちろん
我々生徒においても自らの努力が
そのまま学校生活の向上となるの
だという事を自覚して、力強く学
園を作り上げてゆかねばならな

新しい出発

$$\frac{Y}{Y+F}$$

落成式に思う

中三人 齋藤登史雄

僕は第四回生が本校に入学したのは昭和三十年の春であつた。希望どおしに胸をふくらませ新しい多くの同級生と共に學校に登校した。その時、僕はこの様な事を考へてゐた。

果して現在の流星というものが、過去に對して一段と發展したかと問われる時、僕ははつきり答へられない。いや、本校を形迫る生徒連一人一人という者を考える時、過去の自分が戻つたという氣がす

開氣というものから開放されたに
という氣持が生徒間に起つて來な
からだと思ふ、僕はこれが行きま
ぎないかぎり、わるいとは思わな
い。又、この開放的な雲開氣から
生徒の自主性が生れるのではない

○この学校に入二たからにはその特殊な学校方針を良く理解し生活面に役立てよう。

過去の僕は、新しいものを作りあげるといふ意欲に燃えていた。それからこそ洛星という学

○友人連との交りをも喪きものにして、愉快な学生生活を送らう。
それからもう二年半の月日がたち、我々の生活、心機、周囲の環境は大いに変化した。入学した当時はまだ運動場の方には、青草が浮くほどと好いしげり、水たまりも多し、また、

校はいい学校だという評判が広まつたのだと思う。しかし、現存の僕らの心機は何かみだしきれぬもので一杯である。僕の此頃の学校生活は「生徒自得」におしまくれ個性で、生徒会を運営しているという感じだ。同級生にもその覚悟が多し。可なり、

はなだたうか、今までは家を破る前の十ならしの時期であつて、今から出籍する準備の時期だと聞く、十ならしをしないであつて家を建てるといふことは不可能な新しい、この五年間の十ならしを新しくし、出籍はとうてい望まぬ。今までは

てゐるという有様だつた。もうち
ん、現在の中央公園に当る建物も
なく講堂もなかつた。まだ板倉の
うらには、バラツクの様な建物が
あつた。今と比較すれば、何もか
もひん弱であつたと思う。しかし
中なるみとしてまつておける間
隙が豊富である。今まで進んで
た道がよいかわるいかはこの学
に在學しているのではつまりわか
らない。これから開放的気分を
つてゐる雲開きの学校をどうす
めるかは生徒の間にあるのだ。

各選手大奮闘

高校の部

<h1>高校の部</h1>		<h2>陸上</h2>		<h2>野球</h2>	
▽百米	一位山田辰仙11秒9	▽百米	一位岡野光博12秒8	▽四回戦	一位岡野光博12秒8
▽八百米	緒走五位服部、安川、中川、山田	▽四百米	二位大須昭夫一分三秒	▽一回戦	一位岡野光博12秒8
▽走巾跳	一位山田辰也6米58釐	▽二百米	二位田中孝也13秒0	▽二回戦	一位岡野光博12秒8
▽走高跳	一位中川光市1米60釐	▽三百米	二位大須昭夫一分三秒	▽三回戦	一位岡野光博12秒8
▽三級跳	六位中川光市11米46釐	▽四百米	二位大須昭夫一分三秒	▽四回戦	一位岡野光博12秒8
総合成績第五位		総合成績第五位		総合成績第五位	
○ハンドボール		○陸上		○野球	
▽一回戦	洛星 9(513) 5 立命	▽一回戦	洛星 312 大谷	▽一回戦	洛星 312 大谷
▽決勝	洛星 12(7510) 3 平安	▽二回戦	洛星 4A12 立命	▽二回戦	洛星 4A12 立命
○バレーボール		○陸上		○野球	
▽一回戦	大谷 2(211921) 1 洛星	▽一回戦	洛星 211 洛星	▽一回戦	洛星 211 洛星
○庭球		○陸上		○野球	
▽一回戦	大谷 2(211921) 1 洛星	▽一回戦	洛星 211 洛星	▽一回戦	洛星 211 洛星
▽二回戦	大谷 2(211921) 1 洛星	▽二回戦	洛星 211 洛星	▽二回戦	洛星 211 洛星
▽三回戦	大谷 2(211921) 1 洛星	▽三回戦	洛星 211 洛星	▽三回戦	洛星 211 洛星
▽四回戦	大谷 2(211921) 1 洛星	▽四回戦	洛星 211 洛星	▽四回戦	洛星 211 洛星

庭球部

昭和二十八年現在の高二年生の
中学校入學後藤球部が決定した。
部員募集にあたり中一年生（高二）
の入部希望者は六十名、二年生（
高三）を加えて八十名に及ぶ。太
世将、二年は高橋、野村、杉本、
堀、高島君以下ずらりと秀才を並
べ、一年生は時がたつにつれて中
村、片岡君以下数人といつたであ
ろ。

コートといつても中学校々舎の
裏庭にクイを二本打ち、どうやら
テニスをやっているところだが
わかる程度。写つたボールがバウ
ンドすれば、どこへ行くかと思ふ
縦横無様に活躍させ、おかげで自
のバネは十人並以上。

同窓社中学で行なわれた最初の

謠曲部

地ならし等の作業を行ない、激しい練習の結果、一度ながら敵を倒して落星隊幹部最初の難かしい勝因を得たことは過ぎ去つた五年前よりふりかへつても思ひ出新しい。

現在の高年生が中三の時（明治和三十年）には、梅園時など、コートは水たまり同様、晴れた日は、自転車跡など、でこぼこになつたところをローラであるが土がぬれて効果は薄かつた。この年の秋には、高校校舎の裏に新しくコートが作られ練習の場になつた。

現在高一年生が中三の時（二十一年）には、庭球部規則が作られ

柔道部

廢豫部が満足した。部員は去年
學部豫部だつたものが十名位と
編入生で中學時代に活躍されて
に加ふ、佐藤、山根君を加えて
三、四名である。しかしまだ一
生であるし、また練習時間の不
から思ふうちに活躍できないのの
残念である。

しかし、中學は夏更、府下大
に中三の西山、松本君が出場し
大へん活躍している。また現在
中二には、これからの活躍に大
な望みを持つてよいだろう。

このように廢豫部も年々向上
しつつある。

本校公認陸上最高記録

高 校 の 部						中学の部			
			八百米 継走	走高跳	走巾跳	百米		走高跳	走巾跳
山田展也	安川	中川光市	服部 明	中川光市	山田展也	山田展也		石井惇史	石井惇史
1ハイ	京都インタ	私学総体	ズ	1ハイ 近畿インタ 中モ	1ハイ	京都インタ		京極	私学総体西
		1分40.8		1米60	6米81	11秒7		1米50	5米48
		波越 正博		同	同	同		中田 和夫	黄瀬 一彦 目加田健一
		1米55		1米55	6米11	11秒9		1米40	1米40 5米04

SIRYOKUDO. OPT., CO.

京都府立病院前

視力瞳メガネ店

電 ③ 6867